



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2023年12月1日（第98号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL（88）6639 FAX（88）3231

○2023年度秋の自然観察会を開催しました○

10月28日（土）、心配された前夜の雨も上がった秋晴れの中、御林山を目指した秋の自然観察会を開催しました。朝9時役場前に集合、芦原会長挨拶の後、参加者の集合写真を撮影し（図1）、一路御林山を目指してハイキングを開始しました。10/5の下見の時には何も見られなかったため、道中観察すべき生物が何も無いことが危ぶまれましたが、気温の低下、何度かの雨、参加者の日ごろの善行等が重なったためか、多くのきのこが発生しており、自然観察の対象に事欠くことはありませんでした。途中の道路脇マツ林で見られたヌメリグチ、ハツタケ、かなり稀なきのこのセンニタケ（図2）などです。



図1. 参加者集合写真（岩瀬撮影）



図2. センニタケ（波部氏撮影）

目的地の御林山では、頂上を目指す前に看板が設置されている広場でコカ・コーラボトラーズジャパン（株）と宇治田原町が協定を締結して行っている森林保全活動について説明し（図3）、その後、ほとんどの人は御林山頂上を目指しました（図4）。頂上から戻り広場に集合した後、昼食をとりましたが、空模様が怪しくなってきたため、早々に出発地の役場前まで三々五々の形で戻り、終了の挨拶後に解散しました。



図3. コカ・コーラ活動説明（村林氏撮影）



図4. 御林山頂上を目指す（村林氏撮影）

参加者は町内から4名、町外からは宇治市から4名、城陽市と京田辺市から各1名、エコパートナーシップ運営委員が5名と合計15名でした。参加した方々からは、楽しかった、勉強になった、良い経験をした、できればまた来年も参加したいなどと、概ね高評価をいただきました。日程的には町内の行事と重なっていたこともあり、来年度は少し後にずらして実施するように計画を立てたいと考えています。

コロナウイルスによる感染症もかなり落ち着いてきましたので、2024年度は野外活動・見学会・講演会等の行事の多様化とさらなる充実をはかる予定ですので、住民のみなさんの多くの参加をお願いいたします。

（副会長、自然・生活部会長 岩瀬 剛二）

「朋友 故・新谷博さんを悼む」

わたくしたち、エコパートナーシップうじたわらの仲間であった新谷博(しんやひろし)さんが亡くなりました。

長年にわたり、会の運営委員としてお力添えをいただき、ずいぶんとお世話になりました。

1943年のお生まれで、9月4日に闘病治療薬石の効なく永眠されました。

9月7日の告別式その日が80歳のお誕生日でもあって、大往生の忌となりました。

石川県は能登半島のご出身で、高等学校を卒業された後、宇治市にあるU繊維企業に入社され、ご自身学識の物理「化」学の賢識を、製品開発技術の分野で活躍され、後半はU環境技術センターでの、環境アセスメントに係る、諸々な測定や分析、精密機器の精度管理者として大いに力を注がれました。

城陽市から宇治田原町に移住され、今日までの18年間をエコパートナーシップうじたわらの運営委員として、ご功労にありました。

能登半島の「海の男」ではありますが、誠に温厚な心優しいお人柄で、語られる口数も控えめでありましたが、たばことお酒がお好きであり、私は「歓酒歓談」のお相手となり、よく付き合ったものであります。

ご自宅から近くにある丘の背で、移ろう星座を眺め、一晩中盃を交わした懐かしい思い出は尽きません。

地域の子どもたちのための「ホタルの観察会」にもサポートしていただき、ホタルの光る原理などを教えておられました。

来年は創立20周年を迎える当会のために、新谷さんの残された学識を活かし、供養としたいものです。

ご冥福を祈り合掌。

自然・生活部会 阪本 伊三雄

これからの宇治田原

今年も地域の子供たちの、お芋ほりの時期。身近で芋ほりができる、素敵な環境には違いない。

しかしある時の会議で女性委員さんが、

「一周りに素晴らしい環境がありながら、危ないからと言って、子供たちが躍動する機会を親が与えていない気がします」

と話されていた。

確かに同感だが、責任者となると、手放してリスク管理を放棄できない。この芋畑の最大のリスクは、蛇が潜んでいること。芋ほり前日に、役員の一に手伝ってもらい、蛇がおねんねしていないか、マルチシートを全てはがし、蛇がいないことを確認し「安心」。でも怖かった。姫の激励もあり準備完了。

当日少し怪しい天気も、コロナ禍では参加願えなかった学校長をはじめ、総勢29名が芋ほりタイムを楽しんだ。子供たちの歓声や、地域委員長を中心とした役員さんのうれしい顔を見たときは、責任者を引き受けてよかったと思う。

おりしも、行政を中心に今後10年間の宇治田原の環境を考える「第3期宇治田原町環境基本計画」がお目見えする。今後の10年間、特に人間の生存に関わる温暖化問題が、さらに厳しさを増す。昨今の温度変化や、天候異常は誰をも不安に陥れている。

しかし残念ながら、グローバルな環境問題は、大きなところは国際的な枠組みに任すしかない。我々ができることとしては、正しい情報を取り入れ、省エネ活動を地道に行うことかもしれない。

一方、地域の活動は一人一人の心がけで大きく変わる。お芋ほりができる環境を残すことは勿論、環境基本計画のビジョンになる「お茶の心」は宇治田原の基本。これからの10年間、次の世代に宇治田原町の環境を素敵にリレーしたいものである。

会長 芦原 昇

10月から、新たに林恵子さんが運営委員に加わっていただきました。(事務局)

エコパートナーシップうじたわら賛助会員

濱田プレス工藝株式会社

宇治田原町 宇治田原工業団地管理組合 須河車体株式会社

宇治田原町区長会 宇治田原町森林組合 宇治田原町商工会

エコパートナーシップうじたわら事務局 (宇治田原町建設環境課内)

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場HP「MENU(くらし・手続き)」⇒「生活・環境」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原